

外国の方と交流しよう

フランスの文化とクレープづくり



フランスの文化にふれてみよう！
倉吉市に在住のフランスにルーツのある方と一緒に楽しく交流しましょう。

日 時 3月26日（火）午後1時～3時

場 所 倉吉市人権文化センター

内 容 ① フランスの文化や歴史、生活等を知ろう
② 一緒にクレープを作って食べよう



講 師 EL KHALKI farid（エルカルキ ファリッド）さん

申し込み先 倉吉市人権文化センター 22-4768
締め切り 3月25日（月）



安心して生活が出来ますか？眠れていますか？ 食事はとれていますか？

仕事・生活・病気など様々な生活背景によって心配事は絶えません。まずは生活の基である、住む・食べる・寝るということがとても大切です。不安な状況が続く事があればお気軽にお越しください。電話対応もいたします。

差別落書きを見たら！人権侵害に気づいたら！すぐにお知らせください。

人権侵害や差別落書きは許されない行為です。差別落書きは人の心を傷つけるだけでなく、それを見た人に新たな差別意識を植えつけ、差別を拡大するなど、決して許されるものではありません。みんなで気持ちの良いまちづくりをしていきましょう。

連絡先：倉吉市人権文化センター ☎・FAX （0858）-22-4768



ますな

倉吉市人権文化センターだより
2024年3月1日 発行 No.157号

発行所：倉吉市人権文化センター

住 所：倉吉市鍛冶町1丁目2971-2

電 話/FAX：0858-22-4768

メールアドレス：jinkenbunka@ncn-k.net

地域交流サロン 七宝焼きづくり

～ 花咲く春が待っています。きれいな七宝焼きを着けて出かけませんか。～

倉吉市人権文化センターでは、地域住民をはじめ市民のみなさんが倉吉市人権文化センターに集い、市民同士の交流やほっと一息でき居場所として地域交流サロンを開催します。

今回は、七宝焼きをします。ペンダントやブローチなど好みのデザインで色とりどりの石を並べて焼きます。多くのみなさんの参加をお待ちしています。

日 時 3月23日（土） 10時～12時

場 所 倉吉市人権文化センター

参加費 材料代 800円（銅板型代金一個分）

講 師 坂本 美幸さん（七宝焼き 工房瑩）

定 員 15名（申し込み順に受け付けます）

申し込み締め切り 3月21日（木）

問い合わせ先 倉吉市人権文化センター Tel 0858-22-4768

担当：澤田



ヤングケアラーの人権問題

「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話介護などを日常的に行っている若い人たちのことを言います。（若い人とは、小学生から成人に至るまでの人たちです。）

普段は学校へ行ったり、仕事をしていますが、家に帰ると親や兄弟姉妹などの身体的・精神的要介護者を家庭内で支えています。例えば、家族の食事の準備をしたり、排泄の介助・薬の確認・弟や妹の世話をしながら大人の助けを借りずに頑張っている子どもたちです。こうした中で自分自身のしたいことや必要なものを我慢したり、家族のためアルバイトなどしながら家族を支えています。

精神的にも大きな負担やストレスを感じています。

ヤングケアラーは大変な責任を負っているのも関わらずその存在や実態は理解されず表になかなか出てきません。学校教育の現場においても見過ごされ、教員や同級生にも相談が難しく、卒業後の進路や将来に希望が持てない状況があり、人権課題でもあります。



障がいや病気のある家族

に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をして

いる。



家族に代わり、幼いきょう

だいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょう

だいの世話や見守りをして

いる。



目の離せない家族の見守り

や声かけなどの気づかいを

している。



日本語が第一言語でない

家族や障がいのある家族

のために通訳をしている。

ヤングケアラーの支援

ヤングケアラーは対人関係においても、健康な子どもが感じるストレスや労力よりもずっと大きな負担を抱えることとなります。同じ年齢の友人と普通の生活を送ることが出来ない状況は、自己認識や自己肯定感に深く影響を及ぼします。

重要なのは、まず、ヤングケアラーの存在を認識し、その役割と苦難について理解することです。

話を聞くことで体験を理解し、その家族に適した支援の場を見つけ出すことが必要です。

この問題は継続的な支援が必要で、学校や地域社会による理解と援助が不可欠なので、教育関係や社会的支援をとおして必要とするケアの適切な提供に取り組んでいきたいものです。

社会全体が支援することで、彼ら彼女らが誇りを持ち、健康的に成長し、将来の目標に向かって進むことが出来る世の中をめざして取り組んでいきましょう。そうすることが、一人ひとりの人権を尊重できる社会につながります。



家計を支えるために労働を

して、障がい者病気のある

家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャン

ブル問題を抱える家族に

対応している。



がん・難病・精神疾患など

慢性的な病気の家族の

看病をしている。



障がいや病気のある

家族の身の周りの世話を

している。



障がい者病気のある家族

の入浴やトイレの介護を

している

（挿絵はインターネット、イラストから）

自らが考え、行動し、話し合った中学生人権フォーラム

2月17日(土) 上灘コミュニティセンターにおいて、第23回倉吉市中学生人権フォーラムが開催されました。倉吉市内5つの中学校から約60名の2年生が集まり、部落差別をはじめあらゆる差別の解消をめざし、話し合いをとおして交流をしました。

各学校で取り組んでいる人権学習の紹介や分科会では、自分たちが提案した人権問題について学び合いました。

各分科会のテーマ

中学校	分科会テーマ
西中学校	差別の歴史
東中学校	学校の校則
河北中学校	ユニバーサルデザイン
鴨川中学校	外国人の人権
久米中学校	学習会の調べ学習



講演会：講師 北中健太郎さん 演題「私が部落問題を学ぶ理由」

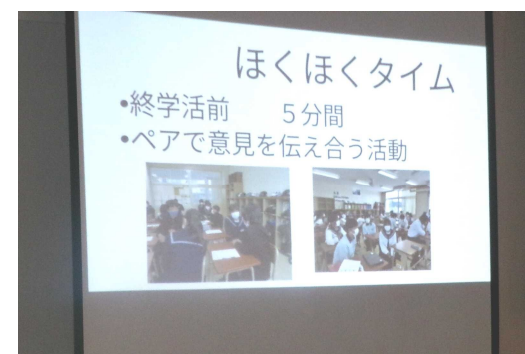
北中さんは、現在公立鳥取環境大学の学生で、社会科の教員をめざして頑張っておられます。高校生の時に「解放研」と言う部活に入り初めて同和問題を学んできました。

住んでいるところで差別を受けるような部落差別があることに驚き、顧問の先生と2人でさまざまな人権問題について学習を重ねてきました。

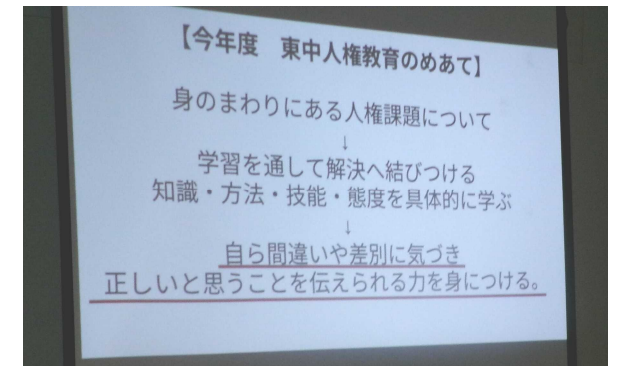
二十歳までの自分自身の浮き沈みをグラフに示し、楽しかったときの様子や辛かった時のことを話され、考えさせられました。

部落に対して偏見や間違った意識を持っている人はたくさんいます。「知らないから差別をしない」と「知った上で差別をしない」では大違い。無知、無関心だから差別が起きると強く話されました

終わりに、自分の中の偏見や差別意識をあぶり出して、それに向き合い、自分自身の考えや行動を変えていくことが大事だと話され、中学生にわかりやすく丁寧に伝えていただきました。



（河北中学校の人権のとりくみ）



（東中学校の人権の取り組み）